

令和2年度

学校関係者評価報告書

学校法人 九州総合学院
九州工科自動車専門学校

令和3年2月
学校法人 九州総合学院

九州工科自動車専門学校
校長 岩村 聡志

令和2年度 「学校関係者評価委員会」報告について

学校法人 九州総合学院 九州工科自動車専門学校では、平成26年度より、教育内容及び学校運営に関する業務について、更なる改善・向上を図るため、本校のホームページ上に公表いたしています。

令和2年度につきましても、「学校関係者評価委員会」を開催し、本校に関連ある企業・業界団体・教育関係者の方々に、本校の教育活動や学校運営に関して貴重なご意見・提言等をいただき、今後の学校運営や評価の在り方について、更なる改善を図るため努力いたしております。評価委員の皆様には、改めて感謝申し上げます。

今回の評価結果を真摯に受け止め、今後とも、業界・地域・学生のニーズに応えられる学校運営を目指し、教職員一同、鋭意努力いたす所存でございます。

引き続き、一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

1. 学校関係者評価委員一覧表（順不同・敬称略）

1	九州産交整備株式会社	代表取締役社長	梅木 博文
2	熊本トヨペット株式会社	執行役員 管理本部長	渡邊 幸也
3	熊本日野自動車株式会社	取締役 管理本部長	堀内 義浩
4	熊本日産自動車株式会社	サービス部長	工藤 真二
5	株式会社スズキ自販熊本	管理部長	福山 敏章
6	(一社) 熊本県自動車整備振興会	専務理事	緒方 勝行

2. 「学校関係者評価」の実施方法について

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 教育課程のカリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2) 各教育科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3) 各授業科目間の調整に関する事項
- (4) その他、人材育成に必要な教育に関する事項

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 業界全体、職能団体、地方公共団体等の役職員
- (2) 学会や学術機関等の有識者
- (3) 企業や関係施設の役職員
- (4) 教育課程編成の責任者又はそれに準ずる者

2 前項の1号又は2号から少なくとも1名、3号から1名を必ず選出するものとする。

3. 委員会次第 (概要)

(1) 開会

- ・ 学校長挨拶
- ・ 諸連絡

(2) 各種報告

- ・ 資格試験・講習
- ・ 自己点検評価
- ・ 校内技能コンクール
- ・ 修学支援 現状 その他

(3) 学校概要説明

- ・ 令和2年度合同企業説明会
- ・ 就職関係 (求人・内定状況等)
- ・ 学生募集状況等
- ・ 財務関係
- ・ その他

(4) 討議・意見交換

(詳細は後記のとおり)

(5) 閉会

- ・ 校長謝辞

4. 討議・意見交換について

各評価委員から、様々な視点からご意見・ご指摘をいただいた。

(1) 自己点検評価について

- ・自己点検評価項目の改善すべき項目については、短期間ですべてを改善することは無理なので、それぞれ優先順位を決めて、ロードマップを作成してから改善を進めてはどうか。
- ・項目の改善に対して実行やチェックを行う改善責任者を決めるべきではないか。
- ・改善を行うにしても自分達だけでは出来ないことがあるため限界がある。外部の助けを借りる等してはどうか。
- ・業務の効率化や情報システムの活用について、自分達で考えるだけでなく、他の企業はどのように行っているのか参考にしてはどうか。

(2) 学生支援について

- ・離職率を下げるためにも、卒業生に対する何らかの支援を考えた方が良いのでは。
- ・卒業生の相談窓口のようなものがあればいいと思う。

(3) 技能コンクールについて

- ・競技の総合点数はわかるが、どの項目が出来て、どの項目が出来なかったのかを、項目ごとにわかるようにして欲しい。

(4) 就職関係について

- ・学生が面接試験を受ける際には、履歴書を暗記するのではなく、リラックスして面接試験を受けて欲しい。
- ・学校側から内定者の成績表を貰った時に企業側としてはどうすればいいのか。成績が芳しくない内定者とは直接面談をしたいと思っている。
- ・内定者とは入社前から、定期的にあポを取って大切に育てて行きたいと思っている。
- ・整備士志望の学生を増やす努力として、企業側も整備士の給与体系を改善するなどしている。

(5) 募集活動について

- ・今は車に興味がある学生が少ないので、eスポーツなどから車に興味を持ってもらうのはいいと思う。

- ・離職率を下げるためにも、学生に車への興味、関心を持ってもらう取り組みが必要だと思ふ。
- ・今の自動車整備士の仕事は、昔のように汚れてする仕事ではないということをしつかりとアピールして欲しい。
- ・県外に就職する留学生が多い。県内に残って就職する学生を増やしていくためには、どのような取り組みを行うかを考えなければならない。
- ・企業説明会において、案内を出す企業はどのように選んでいるのか。現在は県内企業や就職実績のある企業、留学生の採用も行っている企業を中心に案内を出している。

ご指摘・ご提言いただいたことを真摯に受け止め、より良い環境を作るべく検討することを伝え閉会した。

—以上—

記録：吉村